

防災・復興と生成 AI から考える実証分析：多様なデータによる社会変化の可視化

小西葉子（筑波大学システム情報系）

概要

本報告では、防災・復興研究と生成 AI 利用研究を題材に、公的統計、POS データ、会計情報、大規模アンケートなど多様なデータを組み合わせ、社会で起きている変化をどのように把握・可視化できるかを議論する。能登半島地震後の復興分析では、地域経済や生活行動の変化を多面的に捉える方法を紹介し、生成 AI 研究では、「参照」「協働」「委任」といった利用構造に着目しながら、AI 利用の広がりや業種差を分析する。高頻度データ分析やデータビジュアライゼーションを通じて、実証分析で社会変化をどのように可視化できるのかを考える。